

瀬戸内トラストニュース

第59号 2014年8月

環瀬戸内海会議事務局 700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方 Tel & fax 086-243-2927

環瀬戸第25回総会、豊島で開催



14.6.21 豊島産廃不法投棄現場視察。案内して頂いた豊島住民会議元議長・砂川三男さん（86歳）のよどみのない「豊島の闘いの歴史」に聞き入る。



14.6.21 夕刻から豊島唐櫃公堂で開催された総会恒例の懇親会には、豊島の皆さんが参加され、砂川さんの発声で乾杯し、和やかに盛り上がりました

昨年12月で40年目に入った豊島の闘い、不法投棄産廃処理の見通しはまだ先のこと。闘いの歴史に学び産廃処理の現状をつぶさにし、豊島の自然を満喫するとともに、「瀬戸内国際芸術祭」の意味を考えようと、第25回総会は豊島で開催されました。

四国へんろ道を壊し ゴミ焼却施設を建設？！



愛媛県宇和島地区広域組合（一市二町）によるゴミ焼却施設建設現場は四国へんろ道に接している。こんなことがまかり通るのか。四国四県知事会は、四国へんろ道の世界遺産登録を目指すことを申し合わせたはず。登録となれば、遺産保全義務を持つ自治体が「壊し役」になっている！（11P参照）

目次

環瀬戸内海会議第25回総会報告	田嶋義介	2
環瀬戸内海会議2014～15年役員が決まりました		4
環瀬戸内海会議第25回総会・懇親会に参加された豊島住民からの声	曾我三喜夫 山下道代	4
環瀬戸内海会議第24期決算並びに第25期予算		6
瀬戸内法改正請願署名、今秋、臨時国会中に「院内学習会」開催実現を！	松本宣崇	7
兵庫県 海のフォーラム「貧酸素海域と漁の減少」開催	青木敬介	8
広島県 16年ぶり 海砂採取跡地を調査	2014.7.15付中国新聞	9
愛媛県 6月議会、「瀬戸内しまなみサイクリング道路無料化」に反対討論	阿部悦子	10
愛媛県西予市・宇和島市現地視察レポート	松本宣崇	11
新内海ダム訴訟の「公正な判決を求める」署名にご協力を 各地からのご案内		12

愛媛県議会6月議会 補正予算と請願不採択に反対討論

「瀬戸内しまなみ海道自転車無料化事業」補正予算と 「伊方原発を再稼働させず、廃炉にすることを求める請願」

愛媛県議 環瀬戸内海会議共同代表 阿部 悦子

知事の「観光と海外販路拡大優先路線」に反対

「瀬戸内しまなみ海道自転車無料化事業」は、観光客のための施策です。この事業に代表されるように、知事の姿勢は、観光や海外への販路拡大に熱心である一方で、県民の生活に気持ちを寄せる姿勢に欠けています。

「しまなみ海道」は人が住めないほどの疲弊

しまなみ海道では高齢化・過疎化が進み、病院・学校・商店などが姿を消し、フェリーなどの航路も廃止されています。人々は日常生活で高速道路の「しまなみ海道」を使うしかなく、高齢者をはじめ、病人や子どもたちは、のんびきならない出費の負担にあえいでいます。先日の愛媛新聞投書欄には、「交通事故でせき髄損傷をした息子の病院通いに高速料金の負担が月4万円」といい、「医療機関に通う際の通行料だけでも無料にするか、せめて半額にならないか」という悲痛な声が掲載されました。このままでは、世界に誇る瀬戸内の島々は、人が住めないほどの疲弊が進むのではないのでしょうか。

知事は「村上海賊の娘」に学べ

しまなみの島々は、「村上海賊」の末裔の人々が住む土地です。小説の主人公の景は、能島から2度の船出をして闘いに挑むのですが、その相手は、織田信長、力づくで西日本の制圧を狙う冷酷な権力者でした。景の、損得を捨てた、命がけの闘いの目的は、仏の慈悲を信じて、飢え死にも覚悟して闘う、本願寺の門徒、源爺と孫の留吉を救うことでした。景に人々が魅了される源には、崇高なもの、小さきものへの純粋な共感があるからです。

観光客を誘致するイベント「しまの輪2014」は2年間で約5億円の予算が使われます。この予算の全てを否定するものではありませんが、地域の生活者、弱者への配慮が欠けた県の姿勢に、寒々とし

た思いを抱かないではいられません。県は、「村上海賊の娘」を安易に観光に使う前に、力のない弱者に心を寄せる景の生き方に学ぶべきです。

子ども・高齢者の困窮にどう答えるのか

県内でも子どもへの虐待通報件数は増えています。親が育てられない子どもが入所する児童養護施設や、その後の自立を助ける自立援助ホームの予算も足りていません。

一方県内の65歳以上の高齢者数は、40万人、認知症の高齢者は5万人、一人住まいの高齢者も5万人を超えます。24時間対応で、安価で終の住みかにできる「特別養護老人ホーム」は、現在でも1万人の入所希望者がいます。しかし、県は今後の特養への入所計画を2500人に限定しています。

これでは、愛媛県で行方不明になる高齢者はさらに増えると予想されます。

愛媛県の「国富」は生活者への政策で

さて、先日判決が出た「大飯原発差し止め訴訟」では、人々が豊かに暮らす国土こそ「国富」としました。愛媛県の国富は生活者への施策の充実でしか得ることが出来ません。

伊方原発問題に無関心を装う知事

請願第284号『大飯原発での運転差し止め判決』をふまえ、伊方原発を再稼働させず廃炉にすることを求めることについて」が、委員会で不採択になったことに反対です。今議会で知事は与野党からの原発関連の質問に自ら一問も答えず、無関心を装いました。部長は、原発事故の防災には「終わりが無い」と答え、原発の恐ろしさを県自ら認めました。

飯館の悲慘を松山市にあてはめると

また当請願にあるとおり、フクシマ事故では、事故時の避難範囲が同心円状で指示されたために、45キロ離れた飯館村では、避難が遅れ、飯館の人々

は、福島第一原発に近い双葉町や南相馬市よりも積算被曝量の値が大きくなったのです。伊方原発から50キロの松山市が、同じ悲慘を味わうことが予測されなければ避難計画は万全ではありません。

また、初期被曝医療機関の市立八幡浜病院の医師らの試算によれば、30キロ圏内の要援護者では福祉・医療施設の利用者だけで約4千人、そのうちストレッチャーで運ぶ人数は、960人としています。県の消防防災ヘリコプターには、ストレッチャーは一台しか載せられません。この人たちを助けるのは

無理です。

伊方原発の廃炉と敷地内の安全対策を

この一事をとっても、伊方原発の過酷事故時に、県民が安全に避難することは不可能です。原発再稼働のために「終わりのない防災計画」を立てるより、原発は廃炉にして、大飯原発差し止め判決で指摘されたように、伊方原発敷地内でも「むき出し状態の」使用済み核燃料プールの安全対策を取ることこそが、喫緊の課題であることを訴えて討論を終わります。

愛媛県西予市・宇和島市現地視察レポート

環瀬戸事務局 松本宣崇

西予市三瓶町

産廃焼却施設反対運動の現状



14.7.17 西予市三瓶町住民は、松山市繁華街で「産廃焼却施設反対」を訴え、パレード

西予市・産廃問題 県の対応批判 住民報告会で桜内氏 西予市宇和町郷内 域で民間業者が稼働 準備を進める産廃焼却 焼却施設に対し、隣接 する三瓶地域住民ら 稼働停止と廃炉を求め ている問題で、次世代 の党の桜内文城氏（衆 院比例四国）が26日、 市内であった反対運動 の報告会に出席。施設	から基準を超えるダイ オキシン類が検出され たのを踏まえ「施設は 法律上、撤去するしか ない」と訴えた。 基準超過が6月20日 に報道されたことに関 し、県は6月6日に情 報を把握していた。 ひどい話。三瓶の皆さ んや市に、真っ先に伝 えないといけない」と 批判。施設設置に際し 三瓶地域を含めた住民 の同意を得ていないこ	とや、当初の設計図と 異なる施工なども問題 視した。 報告会は、住民らで つくる「三瓶の水を守 る会」（松本泰会長） が西予市三瓶町朝立の 三瓶文化会館で開き、 約500人が参加し た。三瓶地域住民が県 に施設設置許可取り 消しを求めている訴訟 の経過報告などもあつ
愛媛県新聞 2014年(平成26年)7月27日 日曜日	愛媛県新聞	新日本新聞

4月から試験操業に入った焼却施設は、悪臭を放つなどトラブル続き、果ては環境基準を上回るダイオキシンまで排出している。

西予市三瓶町住民は7月17日、松山市繁華街を

パレードして市民に訴え、愛媛県庁で交渉に臨んだ。

しかし、県は住民が要望する許可取消には耳を傾けず、業者への「改善指導」だけ。県は業者の改善計画で事足りれりとする腹積もりなら許せない。

★ ★ ★ ★ ★

宇和島市祝森

広域組合ゴミ焼却施設反対運動の現状



道の左斜面には、最近切られた樹木の切り株が

14.6.17 ゴミ焼却施設予定地(道路の右側)に接する四国へんろ道。写真奥の碎石現場が痛々しい。

愛媛県宇和島市祝森で広域組合の建設計画に反対する地区住民を支援して実施した立木トラストが、明け渡しを求めて提訴され、立木トラストオーナーが、被告席に座る前代未聞の訴訟が進行中です。

しかし予定地は、四国四県知事会が「世界遺産登録」を目指す「四国へんろ道」に接し、登録に逆行する計画であることは誰の目にも明らかです！

宇和島祝森ゴミ焼却施設建設反対

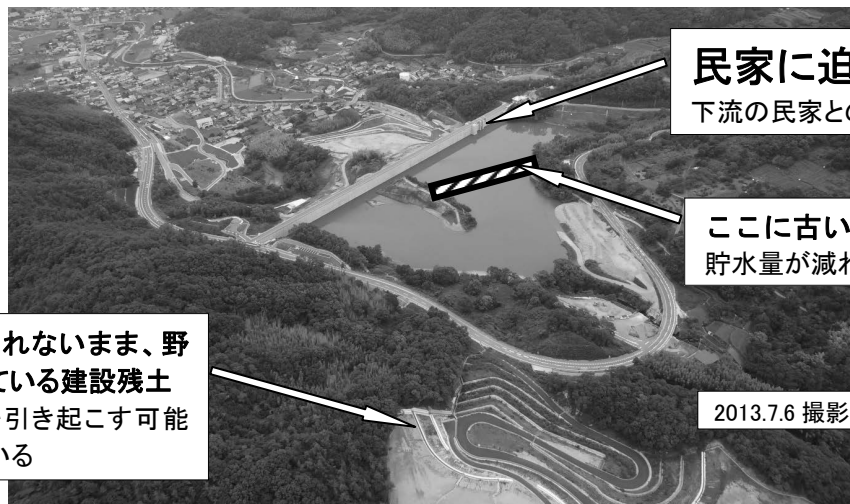
立木トラスト明渡し被請求 第4回口頭弁論

9月11日(木) 10:30 ~

松山地裁宇和島支部

新内海ダム訴訟の 「公正な判決を求める」署名にご協力を

新内海ダム訴訟 10月6日(月)13:10 判決言い渡し



民家に迫る巨大堰堤
下流の民家との間は100mもない

ここに古いダムが沈んでいる
貯水量が減れば顔を出す？

その量も明かされないまま、野
積み・放置されている建設残土
「土石流災害」を引き起こす可
能性が指摘されている

2013.7.6 撮影 小豆島町住民提供

香川県が建設を強行した新内海ダムは寒霞溪の景観を殺し、住民の暮らしを脅かし、地域の人間関係をズタズタに引き裂きました。そして今、試験湛水が終わらないのに、ダム堤にはひび割れ、漏水が発生し、高さ42mのダム堤は直下の民家に突風を巻き起こし、屋根瓦や塀を吹き飛ばすなど被害をもたらしています。しかし、香川県は、原因がダムというなら立証しろと居直っている有り様です。

5年にわたる高松地裁での法廷闘争、10月6日の判決言い渡しをまえに、公正な判決を求め、「寒霞溪の自然を守る連合会」は、「公正な判決を求める要請署名」を進めています。署名（別紙同封）にご協力をお願いします。

各地からのご案内

◆8月12日(火) 湯浅一郎講演会「安倍政権は、市民の安全を保証できるのか？」 18:30～愛媛県男女共同参画センター 参加費 1,000 円 ◆8月16(土)～18日(月) 国際シンポジウム「カンムリウミスズメと上関の生物多様性」 16日13:00～ 山口県立図書館 17日13:00～京都大学農学部総合館1F 18日14:00～衆議院第一議員会館BF 大会議室 参加費 500 円 主催:上関の自然を守る会 ◆9月1日(月) 内海ダム反対街頭宣伝 12:00～香川県庁前 ◆9月11日(木) 宇和島祝森ゴミ焼却施設反対立木トラスト明渡被請求 第4回口頭弁論 10:30～松山地裁宇和島支部 ◆9月29日(月) 内海ダム再開発事業公金支出返還差止請求第26回口頭弁論 14:00～高松地裁 ◆10月6日(月) 内海ダム反対街頭宣伝 11:10～香川県庁前 ◆10月6日(月) 内海ダム再開発事業認定取消差請求判決言い渡し 13:10～高松地裁 ◆10月19日(日) 第28回伊方集会 9:00・JR八幡駅前集合

2014 年度会費納入のお願い
年会費 (一口) 個人 4,000 円 団体 10,000 円
— 何 口 で も 可 —
財政が逼迫しています。カンパ熱烈大歓迎!!

環瀬戸内海会議の公式HP・メ
ールアドレスは廃止され利用でき
ません。当面、下記のアドレスに
ご連絡をお願いいたします。

すでに納入頂いた方にも振込用紙を同封していますが、環瀬戸の活動は、主に年会費とカンパで賄われていることにご理解をお願いします。ご理解のうえ、カンパにご協力をお願いいたします。

瀬戸内トラストニュース 第59号 2014年8月1日発行 / 発行責任者 松本宣崇

環瀬戸内海会議 共同代表 阿部 悦子(愛媛県) 石井 亨(香川県)

Eメール nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

会費等振込先 ゆうちょ銀行 口座No. 01600-5-44750 名義 環瀬戸内海会議
銀行口座からの振込は、ゆうちょ銀行169店 当座 0044750 カンセトナイカイカイギ まで

瀬戸内法改正で首都圏連絡会フル回転を

原発30⁺圏外でも損害賠償請求通告で当事者になれる

環瀬戸内海会議幹事 田嶋義介

環瀬戸内海会議第25回総会が6月22日に、「豊島の今、瀬戸内海の明日」をテーマとして香川県小豆郡土庄町の豊島唐櫃公堂で約40人が参加して開かれた。瀬戸内法改正の動きをめぐり、環瀬戸内海会議の首都圏連絡会に院内学習会開催などでフル回転を求めることになった。また、原発再稼働をめぐり、30⁺圏外の人も過酷事故の際に立地自治体への損害賠償を求める通告をしておけば当事者になれるとして、通告が呼びかけられた。



豊島唐櫃公堂で開催された第25回総会
(撮影 中山敏則 全国自然保護連合事務局長)

総会では、2013年度活動報告に続いて、2年毎の役員改選期に当たるため、阿部共同代表から新役員人事が提案され、了承された。13年度決算では、松本事務局長が、カンパが予算の倍を超える58万円に増えたのと、瀬戸内海入門ブックレット『瀬戸内海は今』の収益から15万8千円を繰り入れ、収入は約239万円、支出は瀬戸内法改正を求める請願の国会提出などで旅費交通費が予算の倍以上の約48万円、機関誌費が12頁建てを16頁建てにしたことなどで約72万円に達し、支出は約233万円に上った、と報告した。決算は承認されたものの、事務所費が12万円支出されたと決算書にあるのに、貸借対照表では未払金に計上されていることなどから、次年度からもっとわかりやすくするように注文がついた。

瀬戸内海の現状をわかりやすく説明を

14年度事業計画の協議に入った。瀬戸内法改正関連の国会ロビー活動費用が多額に上っていることから、出席していた中山敏則全国自然保護連合事務局長は、①院内学習会を国会内で開けば、会場費は無料なので利用した方がいい ②首都圏連絡会があるのだから、この組織を大いに活用して、学習会の設定を計画的にして開催は連絡会に任せていけば、上京する費用も節減できる、環境省にも出席を求めたらい、全国自然保護連合も協力をする ③出版事業に助成金を獲得する努力をしてほしい、と呼びかけた。協議の結果、この方向で今秋の臨時国会中に開催予定の院内学習会を準備していくことになった。石井共同代表は「瀬戸内海の環境は改善されている、とメディアが報道しているので、実際はそうでもないことをどうわかりやすく伝えていくかが課題の一つ」と述べた。

伊方原発で避難計画拒否運動

脱原発活動では、原子力規制委員会が優先審査をした鹿児島・川内原発の再稼働阻止が当面の焦点。伊方原発再稼働をめぐっては、愛媛県の細長い佐多岬半島の付け根の瀬戸内海側にあるので、過酷事故が起きた際には、住民が逃げる避難が難しいことから、避難計画が必要な30⁺圏内の人たちに、首相や自治体首長に避難計画を拒否する内容証明便を送る運動を起こしている、との報告が「原発さよなら四国ネットワーク」からあった。自治体を作る避難計画は信用できないことから、避難計画に従わない人々がいることを示すことで避難計画の実効性が落ちることが狙いだという。

これに関連して、石井共同代表は、福島第一原発事故を経験した井戸川克隆元双葉町長の話から、「30⁺圏外に住む人々もどこへ住むか、どうやって

生きていくかは自由で憲法で保障されていることから、それを阻害する過酷事故が起きた際には損害賠償請求をすることを内容証明便で政府、電力会社、立地自治体に送ることで、どこに居ても当事者になることができる。原子力規制委の田中委員長が新基準に合格した川内原発について『安全だということは申し上げません』と基準に適合しただけだ、としているだけに、過酷事故が起きないとはいえない。原発再稼働に同意した自治体に通告しておけば、その自治体は債務者になりうるからだ」と提言した。伊方原発では、高知県でこうした動きがあるといい、石井代表は通告をしようと呼びかけた。

『瀬戸内海は今』再版を検討

ブックレット『瀬戸内海は今』は、今年5月末現在で、3,000冊発行のうち、2,109冊、978,410円が売れた。販売促進・議員配布、現物支給の執筆料などの307冊を除くと、584冊が残っている。印刷費などのコストは756,397円で、これまでの販売ですべて回収でき、約22万円の収益のうち、一部を決算に繰り入れた。残部を全部売り切れば、約27万円の収益が見込まれる。これについて、「再版や改訂版の刊行をすべきだ。3,000冊で1冊450円で販売しても135万円の収入になる。印刷費は低くなり、経費を60万円とすれば、75万円の収益となる。5年かけても年15万円の収益となり、事務所費も出る」との意見が出た。役員会で今後、再版か改訂版にするかなどを検討することになった。

辺野古埋め立て用土砂採取反対行動

各地の闘いの現状に移った。沖縄県の普天間飛行場の辺野古への移転問題で、海の埋め立て用土砂の採取先に、瀬戸内海では香川県小豆島、山口県周南市黒髪島、防府市向島が上げられており、「採取は瀬戸内海の景観を破壊し、土砂の持ち込み先の環境を壊す」として反対し、昨年暮れ、沖縄県知事、環境省、防衛省に要望書を出した。今後、埋め立て差止め訴訟の原告参加や海のボーリング調査に反対する運動への呼びかけを求める要請が現地の反基地団体からあった、と報告した。

海岸生物調査では、瀬戸内海沿岸約40カ所で行われている。広島県教組環境部会が今年の定点

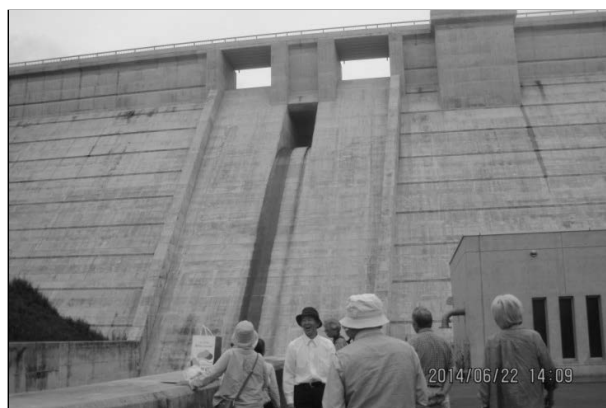
観測から参加してくれるなど、今後も継続的な調査体制を地元で構築を進めていく方針が説明された。

山口・上関原発建設反対運動では、今年3月8日に過去最大の7,000人を集めた「上関原発を建てさせない山口県民大集会」が開催されたことや、「上関の自然を守る会」が国の天然記念物の海鳥、カンムリウミスズメに発信器を取り付けて上関原発予定地周辺海域で繁殖をしているかどうかを調べている、との報告があった。

廃棄物処理場問題が各地で多発

各地の産業廃棄物や廃棄物処理場建設をめぐる状況報告もされ、廃棄物処理が環境保全上、大きな問題になってきていることが浮き彫りになった。約15年間も続く岡山御津産廃処分場建設計画では、昨年12月に広島高裁岡山支部が業者に建設差し止めを命じる画期的な判決をした。今、最高裁で係争中だが、「御津産廃反対同盟」は公正な判決を求めて、署名運動を展開している。兵庫県の豊岡市の広域組合によるゴミ・汚泥処理施設建設計画や姫路市夢前町の産廃処分場計画、赤穂市の採石場跡地の産廃処分場計画などとその反対運動の現状が次々と報告された。

総会の前日の6月21日には、参加者はまだ未解決の豊島産業廃棄物不法投棄現場を視察した。また、総会後にはオプションツアーとして、小豆島の新内海ダムの建設現場を見て回り、現状の認識を深めた。



14.6.22 総会後のオプションツアーは、新内海ダム建設現場を「寒霞溪の自然を守る連合会」代表山西克之さんの案内で視察しダム直下で説明を受ける。

3月の伊予灘地震で新内海ダムは、ひび割れが拡大し、水漏れを起こしていた。慌てた香川県は、業者を動員し、堤体表面のひび割れ・水漏れの跡を消した。ダム直下の住民は堤体の強度低下に不安を募らせている。

2014～15 年度役員が決まりました

第25回総会の終了をもって、任期二年が満了となる現役員について、役員会では、現役員の留任の意志を確認するとともに、新たに二名の会員に新役員就任を打診、了承を得て、次期役員推薦名簿として提案するとともに、議場に役員への立候補を求めた結果、以下のように新役員が決まりました。

共同代表 阿部悦子(愛媛) 石井 亨(香川)
 副代表 青木敬介(兵庫) 倉橋澄子(東京)
 幹 事 岡田和樹(広島) 井出久司(愛媛) 小倉 正(愛媛) 河野康臣(大分)
 北 貞丈(愛媛) 斎藤 巧(香川) 坂井 章(広島) 田嶋義介(山口)
 中村ミヤ子(山口) 服部 豊(兵庫) 渡部淑子(東京) 以上、留任
 吉岡賢二(香川) 若槻武行((神奈川) 松原朋恵(兵庫)
 子供の未来を守る会(代表：安田佳充)(兵庫) 以上、新任
 顧 問 湯浅一郎(東京) 佐々木克之(北海道)
 監 査 岡 禮子(東京) 前田俊英(岡山)
 事務局長 松本宣崇(岡山)

* 退任 幹事：小坂正則、高嶋美登里、森田修 顧問山田國廣 長きにわたり有難うございました。

新役員から一言 いずれも幹事に就任しました

	吉岡賢二 (よしおかけんじ)さん 製紙工場の自家発電設備担当。福島県いわき市に出向し、東日本大震災と原発事故を経験。仕事の経験を環境改善に繋げて行きたい。		若槻武行 (わかつきたけゆき)さん 環瀬戸は目的の同じ団体が一堂に会し、経験を共有し共闘する画期的な組織。その今日的役割は多大だ。首都圏の活動で力になりたい。
	松原朋恵 (まつばらともえ)さん 豊岡市の広域ごみ焼却施設建設の反対運動から環境問題の深刻さを学ぶ。環瀬戸に役員として、お手伝いしたい。		安田佳充 (やすだよしみつ)さん 「子供の未来を守る会」は、子育て世代が、子や子孫の為に住みよい環境を残そうと、産廃最終処分場の建設反対に立ち上がった会です。

懇親会に参加された豊島住民からの声

☆ 6.21 豊島・唐櫃（からと）公堂にて ☆

豊島在住 曾我三喜夫

環瀬戸内海会議に初めて参加しました。全国から、ここ瀬戸内の島・豊島に来て下さり、今、これから気になる環境のこと、聞かせてもらいました。

わが豊島の産廃も県と約束した通りに元のきれいな島に戻るのでしょうか？まだまだ見守っていかなくては・・・

近くでは小豆島の内海ダムのこと、再開発という

名の元、本当に豊かになるのでしょうか？大きなものを造ってしまうと、その維持管理にお金がかかり、果たして絶対に必要なものなのか疑問に思います。

私自身はここ豊島の中にいて、日々の生活に追われ気になることの現場とか、活動に参加することはできません。そんな中でも全国から豊島の不法投棄現場を見学に来る方々を案内するバスの運転手をし

ながら、その案内をされる住民会議の語り部をずっと聞き続けています。30年以上も活動を続けて、そのお話を語ると、短い時間では語り尽くせないことが身にしみて伝わります。その現場を生で経験した方ならではの本物の語り部のお話を何百回と数えきれ

ないほど身近で聴き続けています。

ここに集われた方々にも全国にお話を伝える語り部として活動されていくことを頑張ってもらいたいと思います。

◇ 6.21 環瀬戸第25回総会懇親会に参加して ◇

豊島在住 中山道代



14.6.21 第25回総会懇親会、砂川三男さんの発声で、まずはカンパニー

環瀬戸って何？」が親睦会に誘われた時の正直な気持ちでした。砂川（三男 豊島廃棄物対策住民会議元議長）さんが誘ってくれるのだから、面白そうというのも正直なところでした。

いざ参加してみると驚きの連続でした。いろんな地域の方々、知らない島や町の方々の話を伺いながら、知らないことばかりと感じた時間でした。

翌日、環瀬戸を検索してみました。そして、また驚きました。「自然と環境を守る全国交流会」参加団体であること、1990年に「瀬戸内海を毒壺にするな」を合言葉に結成されたこと。25年間にわたり御らに続く活動を続けられてきたこと。

子どものころから豊島の夕日が大好きでした。小学校の頃、団子の瀬で埋立て用に使う砂を採り始めました。父が砂採りに反対していたので、漁師を含む多数の人がデモをしながら家に来て家に石を投げつけました。怖かった記憶とともに、大人が石を投げつける不思議と国立公園の砂を採ってよいのかという疑問が子どもに残りました。砂を採った結果が現在の神子が浜の姿です。産廃の時に松浦は家に来て包丁を畳に突き刺して怒鳴っていました。父は相変わらず「自然を大切にせなあアカンで」と言い続けていました。

私は大学時代から41年間、(東京都)豊島区で過ごし、便利で小奇麗な生活を満喫していました。電

化製品に囲まれ、便利さに慣れ、土から離れ、人工的な空間に納得し、不要なものは全てゴミ収集車が持ち去ってくれる生活でした。

豊島に帰ってきました。朝の空気のおいしさ、草のおいしさ、風の心地よさ、虫の声、日に日に変わる葉っぱの色、もぎたての野菜の甘さ、跳ねてる魚の命を貰う私の命、ゆっくりと子どもの頃の体験が蘇ってきました。毎日出る生ごみ、抜いた雑草、枯れた草木の後始末などは全部自分でしなければなりません。工夫しなければ身動きできなくなります。トイレに入ると便座が開きウォシュレットを使用していた生活から肥やし汲みをして畑にまく生活への大転換です。自分の全身を使って生活しています。

いま、私の目標は、極力ゴミを出さないことと自分の食べる野菜を作ることです。山や海で腐葉土を集め菜園に埋め、虫や鳥と格闘し、工夫しながら生活しています。「未来への私の責任」という大きな課題をいつも片隅に置きながら、自分の身体と頭を使いながら「本当の豊かさとは何か」を考え続けたいと思います。それが自然と環境を守ることにつながると思ったらハッピーです。

今回の懇親会に参加して、環瀬戸の皆様の活動を知ることが出来たこと、今まで皆様が豊島にご尽力して下さったことを深く感謝いたします。ありがとうございます。また、懇親会の自己紹介で発表して下さった各々の方の生き方を伺うことにより自分の人生を振り返るとともに、これからの生き方を考えられたことを感謝いたします。(2014.7.7)

注)本文中カッコ内は編集部で挿入

環瀬戸事務局より

砂川三男さんの計らいで、豊島島民お二人から寄稿がありました。と当時に、お二人は環瀬戸に個人会員として入会されました。心から歓迎いたします。

**環瀬戸内海会議・第24期(2013.4.1～2014.3.31)予算及び決算
並びに次期第25期(2014.4.1～2015.3.31)予算案**

	勘定科目	補助科目	第24期予算		第25期予算
			予算	決算	
収 入	前期繰越		223,092	223,092	55,498
	年会費		1,480,000	1,318,000	1,500,000
		団体	280,000	140,000	200,000
		個人	800,000	854,000	900,000
		総会	400,000	324,000	400,000
	事業収入		135,000	253,100	245,000
		集会シンポ等	15,000	0	15,000
		トラスト繰入益	0	0	0
		出版事業収益繰入	100,000	158,000	180,000
		物品販売	20,000	95,100	50,000
	寄付・カンパ		250,000	581,163	550,000
	雑収入		5,000	15,521	5,000
		雑収入	4,500	15,170	4,500
		受取利息	500	351	500
	助成金		0	0	0
合 計			2,093,092	2,390,876	2,355,498

支 <
--

監 査 報 告

環瀬戸内海会議第24期(2013年度)会計を厳正に監査したところ、
帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査

前田俊英 

監 査

岡 禮子 

瀬戸内法改正請願署名、全て国会に届けました 今秋、臨時国会中に「院内学習会」開催実現を！

環瀬戸内海会議事務局長 松本 宣崇

◆ 請願署名全て国会に届けました

3月25～27日、首都圏の皆様にご協力頂き請願署名提出要望を行い、衆参両院に提出されました。提出の「紹介議員」を引き受けて頂いたのは、江田五月（参院岡山・民主） 菅直人（衆院東京・民主） 仁比聡平（参院比例・共産） 玉木雄一郎（衆院香川・民主） 吉田忠智（参院比例・社民） 桜内文城（衆院四国・維新） 辻元清美（衆院比例・民主） の計7名の衆参議員でした。

しかし、自民党所属議員に委ねたものの、後日固辞され、宙に浮いていた署名を、5月15～16日、以下の議員に引き受けて頂きました。

福山哲郎（参院京都・民主） 9,000 筆

津村啓介（衆院岡山・民主） 9,000 筆

提出署名総数、77,045 筆に上りました。

署名提出は、やっと入り口に辿り着いたにすぎず、実質的な法改正は今後の取り組みに課せられています。秋の臨時国会(予定)開会中に、「瀬戸内法についての院内学習会」開催を実現させていくことが大きな課題です。

ところが、12年秋、自民党が野党時代、「瀬戸内海環境保全知事市長会議」の意向で党内に立ち上げられた「瀬戸内海再生議員連盟」が、通常国会閉会直前になった6月初旬、自公共同提案で参議院に「瀬戸内法改正案」が提出され、継続審議となっています。

◆ 私たちの改正案の実現目指そう！

「継続審議」となった自公改正案は、臨時国会では必ず審議されます。自公改正案が成立すれば、相当期間、改正に機会を失います。

私たちの埋立て、産廃持ち込み、海砂採取の禁止を法に明記し法的効力を求める請願署名趣旨に理解を求め、皆様のご協力をお願いします。

◆ 自公共同の瀬戸内法改正案について

自公改正案では、① 全般に「自然海浜の保全」「自然環境の再生及び創出」といった抽象的なことばが並んでいるが、具体的に「何をどうするのか」は明確ではありません。②これ以上の埋立てをどうするか、規制について全く言及されていません。③産廃の持ち込みも海砂採取についても言及されていません。

私たちが改正案で、最も規制すべきとした、埋立て、産廃の持ち込み、海砂採取については、基本的には現行法を踏襲するものと思えません。

例えば、「公有水面埋立法」に基づく埋立ての承認でも、埋立て許可権限者たる府県知事は「環境に十分配慮」にとどまり、現行法のままです。

しかも現在、特に大阪湾・播磨灘・燧灘・広島湾などで水質、特に泥質の富栄養化が続いているにもかかわらず、「削除」とされています。

今日の瀬戸内海の最大の課題「貧酸素海域」の原因と条件、その対応への視点、沿岸水系と島嶼部への産業廃棄物の持ち込みと投棄への対策が全く欠落しています。

改正案第三条の二「生物多様性及び生産性を持続的に確保する」ことは大賛成であるが、本気で取り組んでほしいものです。

また、改正案第四条の二「関係府県知事は・・・当該湾・灘その他の海域を単位として関係者により構成される協議会の意見を聞く・・・」とあるが、その協議会には必ず「地域で環境問題に取り組む住民、NGOの参加」を明記すべきです。

ヘタをすると第一条に記された「自然海浜の保全、環境保全のための事業」に産廃が持ち込まれる恐れがあり、特に有害物質の河川、下水道への投棄に強い規制が必要であることは明らかです。

最後に、第五章の罰則は甘く、少なくとも100万円単位の過料を示すべきでしょう。

海のフォーラム「貧酸素海域と漁の減少」開催



14.6.29 海のフォーラム会場

2014.06.29

去る6月29日(日)、網干図書館ホール(姫路市)を会場に、兵庫県水産技術センター前所長、反田實氏をお招きして、「貧酸素海域と漁の減少」問題を考える会を開催した。

貧酸素海域とは、陸上から人間が排出する汚染物質が、ストレートに沖合に出て深場に溜まり、バクテリアたちによって分解される時に、水底部やドロの中の酸素を使ってしまう、時には「無酸素」になったり、さらにひどくなると硫化水素が発生する現象である。他にも海水温が高くなるとか、アマモの減少といった条件があるが、過度の浅海・干潟の埋立てによって渚・干潟の底生生物たちの浄化力を奪ってしまったことが、貧酸素化の最大の原因であろうと思われる。それらの結果、兵庫県播磨灘では、**底もの**といわれるカレイ、ヒラメ、ガザミなどは、そこに棲むことは出来ず徳島県側や紀伊水道に逃げてしまう。

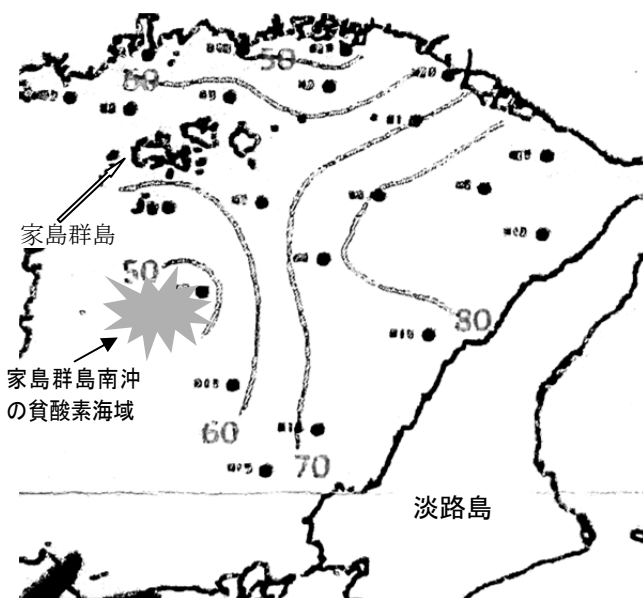
播磨棚を守る会は20数年前から、播磨灘北部(加古川河口から赤穂御岬まで)の10ポイントで、海水と底泥の調査を行ってきたが、1999年夏から姫路市飾磨・広畑沖にハッキリその兆候が現れ、以後年々その海域が拡大していった。

反田氏の話によると、最近、貧酸素海域が家島群島の南、播磨灘中央部にも出現したという。そこは水深40m近く、潮の溜まり場である(右段図)。

これらの状況をもたらす原因・条件は大まかに

播磨灘を守る会 代表 青木敬介

分けて三つほどある。①潮流のゆるい所、②渚等を埋め立て過ぎて海浜の多様な生物による浄化力が無くなった所、③浚渫で海底に深い穴の出来た所などである。



2013年8月における播磨灘の底層溶存酸素飽和度(%)

瀬戸内海全域を見ても、むちゃくちゃに埋立てをやってきた大阪湾、播磨灘、広島湾に、貧酸素海域が広がっていることからしてやはり浅海・渚の埋立てが一番の要因だろう。

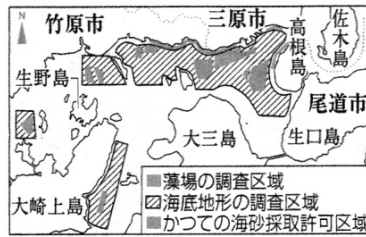
講師の反田氏は、播磨灘埋立ての最盛期(1970年代)と漁獲が減少する90年代(漁獲のピークは1985年ごろ)とでは間隔が空きすぎて、必ずしも埋め立てが全ての原因とはいえないと言うが、埋立て後、直ちに貧酸素＝漁獲減になるほど海は単純なものではない。埋立てから10数年後に、海底のヘドロ化が進み、その分解に海水中の溶存酸素が消費されてしまうことも、その結果、漁獲高が減少してしまうことも、大いに有りうることだ。

どう対応するか、決め手はないが、アマモ場を増やすとか、渚・干潟を復元することが必要という会場からの声が多かった。

⑨ **アマモ**:イネ科の海草で光合成により海中に酸素を放出する。アマモ場は魚類の「海のゆりかご」といわれる。

広島県 16年ぶり 海砂採取跡調査を開始

2014.7.15 中国新聞



広島県は14日、1990年代まで大量の海砂が採取された県中部の瀬戸内海で

海砂採取跡調査を開始

広島県 藻場の再生状況確認

「多くの調査地点でアマモが見られた。群生している場所も、まばらなところもあった」と話した。今月下旬からは、海底地形を竹原、三原、尾道市と大崎上島の海域で調べる。8月下旬まで、ソナーなどの専門機器を使って、水深や海底の起伏などを細かく記録する。

県は来年1月までに藻場の分布図や海底の図面をまとめ、本年度内に公表する予定。3年計画では、採取で大幅に減った小魚イカナゴ

環境調査を始めた。魚の減少など生態系に深刻な影響が出た海域で、自然がどのよう回復しているかを確認し、今後の対策に生かす。2016年度までの3年計画。まずは約1カ月かけて掘り返された海底の地形と藻場の分布を調べる。海底地形の調査は、県が採取を全面禁止した98年以来、16年ぶりとなる。

初日は、県が委託した中電技術コンサルタンツ（広島市南区）が、竹原市沖で藻場の様子確かめた。3隻の船に分乗した作業員たち9人が午前8時すぎから午後3時まで、沿岸約3キロを移動しながら、海に潜って海藻の生える場所や密度、水深をチェック。船上からも箱眼鏡や専用機器で確認した。

動画は中国新聞HDで

（野崎建一郎、中島大）

中国新聞 2014年（平成26年）7月15日

中国新聞 2014年（平成26年）7月15日（火曜日） 16版 社会 (32)

漁業者ら漁場再生期待

環境調査に
広島県着手

市民団体「継続が大事」

海砂採取

広島県が14日に環境調査に着手した瀬戸内海の県中部海域は、マダイやサバの減少が続く。一帯を漁場にする漁業者や鮮魚店経営者は、調査を「豊かな海を取り戻すきっかけになれば」と見守る。採取禁止の反対運動をかつて展開した市民団体の関係者も綿密調査や、他県への波及を期待している。（1面関連）



竹原市沖の船上から箱眼鏡で藻場をのぞく作業員（撮影・福井宏史）

1980年代の半分以上と明かす。「餌となるイカナゴがいた場所に、よそから砂を持ってくるなどの対策につなげてほしい」芸南漁協から魚をよく仕

広島県が、竹原市の吉田徳成さんたち「瀬戸内海海砂禁止反対期成同盟会」の反対運動で海砂採取の全面禁止を宣言したのが、1998年であった。

その中では、許可量をはるかに超す海砂採取が明らかになり、瀬戸内海で採取された海砂総量は許可量の3倍とも5倍ともいわれる。遅きに失したが、16年ぶりに採取跡地の海底の調査が広島県で始められた。

広島県が禁止した後、海砂採取を続けた岡山・香川・愛媛各県も、採取跡の継続的調査を直ちに実施するように、強く訴えたい。

が釣れなくなった。海砂を取ったために、イカナゴなどの餌がいなくなったせいだと批判した。農林水産省によると、イカナゴの県内漁獲量は85年に543トあったが、2000年に8ト、09年に2ト、13年は0トになった。竹原市は、海砂採取反対の市民運動の中心拠点だった。市民団体「瀬戸内海海砂採取全面禁止同盟会」の吉田徳成世話人（85）は「竹原市は、16年ぶりの調査を評価しながらも、継続が大事。毎年状況を追わないと危険」と指摘する。瀬戸内沿岸で海砂採取が全面禁止されたのは06年。採取反対運動を展開した市民団体「環瀬戸内海会議」の松本宣崇事務局長（66）は「岡山市北区は、他県の追随や国の支援を求めている。『海底の詳しい調査はこれまで、ほとんどやっていない。国が首領を取って広域調査をし、住民を交えてどうしたらいいか議論していくべきだ』と問題提起している。」（中島大、野崎建一郎）